

「福祉・介護」の講義と演習

日時：2月8日
場所：本校家庭科室

講義 演題「共に生きる」
講師 トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校
介護福祉科学科長吉岡俊昭先生

吉岡先生の介護職での体験を交えたお話から、先生の熱い思いを受け取り、心を動かされ、「介護とは」「認知症とは」「共に生きるとは」ということについてたくさんことを学びました。そして、「好きな事を仕事にすれば、辛くても頑張れる。」「自分の人生は自分で決める。そうすれば、人のせいにならない。」「今を真剣に生きろ」という先生のメッセージから生徒たちは、これからの進路について真剣に考えていきたいという思いを強くしました。

講演の様子



【生徒の感想から】

人の話を聞いてこんなにも心が動いたのは、初めてのような気がする。ユーモアがあり、真剣さがあり、何より熱かった。介護・福祉に対する見方や考え方が少し変わった。福祉に関するニュースといえば、マイナスなイメージが強い。しかし、今日話を聞いて、マイナスなことだけでなく、プラスな事もあることが分かった。「認知症の人の世界、認知症でない人の世界、二つの世界は違う。認知症でない人は、認知症の世界に入っていくけない」という話はすごく共感できたし、親や祖父母が認知症になったときには、広い心を持って接したいと思った。

吉岡先生の話聞いてまず、高齢者への視野を広げていかないといけないと感じた。例えば、排せつの場所が間違っていたとしても迷惑が無ければ何も問題ないということを理解するという。また、仕事に対する熱意がとても大切だということ。「この仕事をやりきる」とか「みんなの為に」などの情熱が必要だと思いました。また、一回だめかなと思っても成

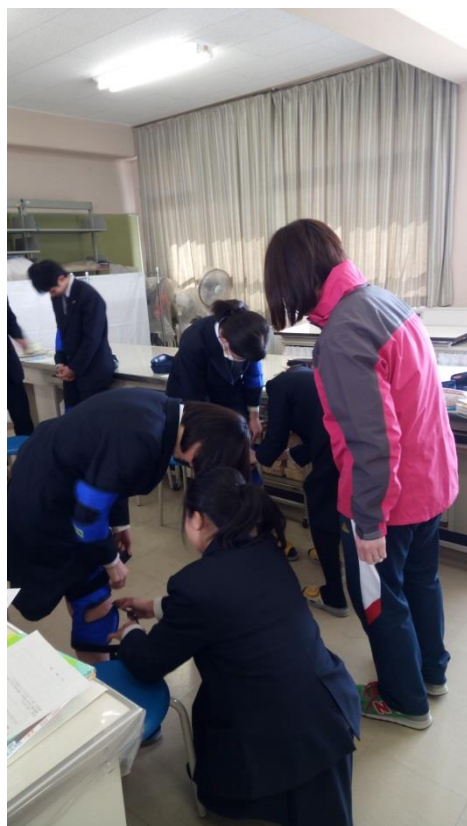
功させるためには強いメンタルを持つこと、自分ではっきり決断する力をつけることが必要だと感じた。

吉岡先生の認知症の人と「共に生きる」という態度、行動はすばらしいと思いました。そのことを熱く語っている吉岡先生にも感動しました。認知症の人に私は出会ったことがありませんが、関わってきた先生はその人を責めたり、怒ったりせず、どんなことでも受け止めていること、逃げずに接し、最後の亡くなる時まで一緒に傍にいることは、おばあさんのこと、介護の仕事が本当に好きだからできることだと感じました。私も自分で決めた夢に向かって頑張っていきたいと思いを強くしました。

自分たちの「普通」は認知症の人たちの「普通」とは違うことが分かりました。吉岡先生のお話から、介護とはトイレや食事の補助などだけでなく、その人の生き様を守っていくことが何より大切なのだと分かりました。認知症になってしまうと、記憶がなくなってしまうし、何よりも「分からない」ということは苦しい事なのだと思います。今までは、忘れられた人のほうが悲しいのではないかと思っていたけど、忘れてしまった人のほうが苦しくて悲しいのだと考え方が変わりました。私が祖父母や父母の介護をするようになったときはこのお話を思い出すとします。

一番心に残ったのは、記憶がなくなって忘れてしまっただけで本当に悲しくて辛いのは忘れた本人であること。今まで、自分が愛情をもって育てた子どものことを覚えていなくて、思い出せなくて、他人としてしか見えなくなってしまうこと。親と毎日、顔を合わせて、本当に嫌になることも多いけど、これからは、もっと一瞬一瞬を大事に生きようと思えた。

高齢者疑似体験の様子



視覚困難体験の様子



聴覚困難体験の様子



広島FMの9ジラジ介護部の取材受けました。興味がある方は大窪シゲキの9ジラジ介護部のホームページをご覧ください

取材の様子

